

第8回奈良県宗教者フォーラムに参加

堀内みどり

『神と仏と日本のこころ—修験道を考える—』をテーマに5月28日、奈良県吉野町の吉野山ふるさとセンターで行われた標記フォーラム（主催・奈良県宗教者フォーラム実行委員会）に参加した。このフォーラムは昨年一般にも公開されるようになり、当日は、雨にもかかわらず、県内の宗教者や市民ら約350人の参加者があった。

同フォーラムは、奈良の宗教者が一堂に会し、日本人の伝統的な精神性を見つめ直し、現代社会での宗教の役割を考えることを目的とし、天理教は運営スタッフとしても参画している。今回は、フォーラムに先立ち、修験行者が法螺貝を吹きながら先導、参加者は金峯山寺蔵王堂に参集し、五條堂堯同寺管長を導師に「東日本大震災慰霊追悼及び復興祈願祭」として採灯壇護摩供が執り行われた。

修験道の聖地である金峯山寺（奈良・吉野町）の田中利典執行長が「修験道入門」と題して基調講演を行った。この中で、修験道とは①山の宗教、山伏の宗教（大自然が道場）、②宗派を超えた実践宗教（実修実験）、③神仏混淆の多神教的宗教（日本人的な祈り）であると概観し、「全国土の7割以上を山である日本において、古代より山は神仏や祖霊が坐す世界であると考えられ、畏れをもって仰ぎ見られた。その世界に入るとは聖なるものに触れるという宗教意識に根ざしている。その基層に深く関わるのが修験道であり、神仏混淆の宗教観がある。その日本古来の山岳信仰に、神道や外来の仏教、道教、陰陽堂などが習合して成立した日本固有の宗教が修験道、山伏の宗教である。大自然の山中に入り、心身を鍛錬し、聖なる力、超自然的な神仏の力（験力）を得る者が山伏で、修験者とも呼ばれる。五体を通して、実際の感覚を体得する実践的な宗教」とまとめられた。また、「日本では、もともと神仏の距離は、現代人には想像もできないくらい、近かった。仏は『蕃神（あたらしくにのかみ）』と呼ばれた。神仏は争わず、互いを敬い祀りあう関係こそ、日本独特の民俗宗教である。その結果、権現信仰のような神仏融合の信仰さえも生まれた」と説明した。

その後、第2部では、「歴史にみる修験」をテーマに4人のパネリストによるパネルディスカッションが行われた。その中で、岩田長太郎天理教総務部長は、天保8年、9年の修験者中野市兵衛による護摩・寄加持に触れ、天理教の立教の意味について説明した。他のパネリストは狭川普文東大寺執事長、鈴鹿義胤高嶋神社宮司、田中利典金峯山寺執行長で、岡本彰夫春日大社権宮司がコーディネーターを務めた。

天理台湾学会開催

佐藤浩司

天理台湾学会第21回研究大会が、7月2日、天理大学を会場に開催された。11の研究発表に、鄭正浩氏による「民間宗教の祭祀儀礼と台湾社会」と題した特別研究発表があった。

付置研第11回「生命倫理研究部会」に参加・発表

金子 昭

7月6日、大本本部みろく会館にて開催された教団付置研究所懇話会第11回「生命倫理研究部会」に参加した。今回のテーマは「生殖補助医療」。これは、去る2月に行われた日本宗教連盟主催「宗教と生命倫理」シンポジウムのテーマ『「代理出産」の問題点を考える—生殖補助医療といのちの尊厳—』を受け、宗教界として人間生命の始まりへの人為的介入についてより包括的な観点から考察すべきだという共通認識を踏まえている。オブザーバーの宗教研究者を含め、16の付置研究所から合計47名が参加した。

最初に、立命館大学大学院先端総合学術研究科で薬剤師の利光恵子氏より、「産むこと・生まれること—受精卵診断を中心に」と題して発題。続いて私（金子）が「諸宗教に通底する“いのちの尊厳”と生殖補助医療の諸問題」という題目で発表した。

利光氏は、受精卵の着床前遺伝子診断について日本への導入の歴史を検証し、この受精卵診断が歴史的・社会的要因による解釈の変化のために、生命の選別にも流産防止にも用いられることを説明した。しかし、最近の知見によれば、初期胚にはたとえ何らかの異常があったとしても、成長を続けて誕生にいたることも分かってきており、受精卵診断の有効性が疑問視されているという。

私は、宗教は“いのちの尊厳”を説くことで、一般市民社会での議論に共通の土俵に立つことができると同時に、さらに“いのちの尊厳”の「根拠」をそれぞれの教義から論じることで、宗教ならではの独自の視点が示せることを述べた。“いのちの尊厳”は、「人格の尊厳」と「生命の神聖さ」の二層構造から成り立っており、人間生命の始まりにおいて第三者を介在させる生殖補助医療（精子提供・卵子提供・代理出産）は“いのちの尊厳”を揺るがすものではないかと問題提起を行った。

休憩をはさんで、大本教学研鑽所と浄土宗総合研究所から、生殖補助医療についての教団見解に関する報告が行われた。その後、宗教とリプロダクションの関係について研究されている、オブザーバー参加者の猪瀬優理氏（龍谷大学講師）より、利光氏と私の発表についてのコメントがなされ、引き続き参加者も交えて活発な質疑応答が取り交わされた。

訃報

中島秀夫先生

元研究員で研究所顧問の中島秀夫先生には、去る7月3日、お出直し（逝去）になりました。先生には、宗教文化研究所時代から所員としてお勤めになり、副主任、主任としてお勤めいただきました。享年85歳でした。